

2009年3月期中間決算 事業の業績（連結）

2009年3月期中間決算 連結業績

(単位：百万円)

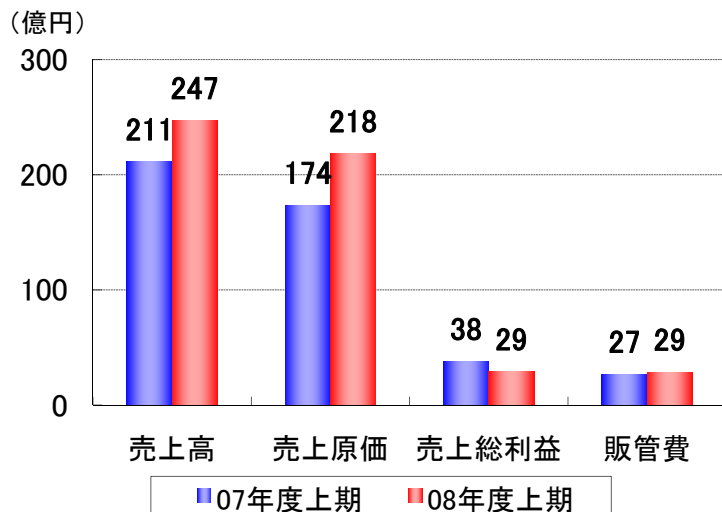
損益	08年3月期 上期	09年3月期 上期	前年同期比
売上高	21,132	24,717	117%
売上原価	17,353	21,828	126%
売上総利益	3,779	2,889	76%
販管費	2,691	2,866	107%
営業利益	1,087	23	2%
経常利益	1,130	△ 337	△ 130%
中間純利益	494	△ 1,005	△ 303%
1株当たり 純利益 (円)	10.71	△ 22.30	△ 308%

業績の特徴

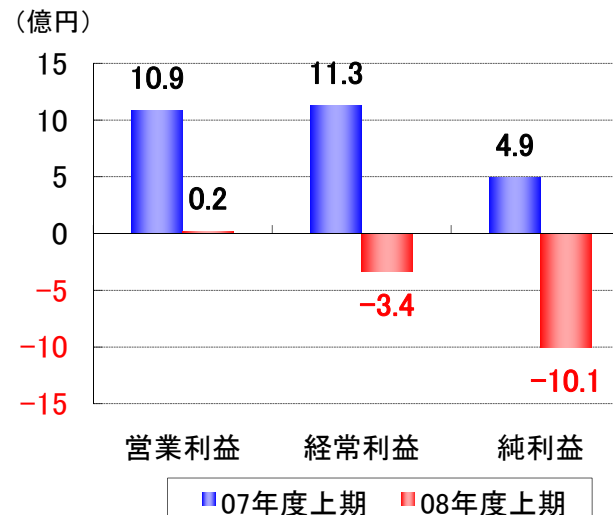
特徴

1. 売上高は、前期比+17%増加と5期連続での増収となりました。主要因は、リチウムイオン電池正極材料が拡大したことによります。その他色材事業も若干寄与しました。
2. 売上原価は、前期比+26%増加しました。これは主として、激しい原燃料、建設資材価格の高騰、H.C.スタルク社から引き継いだ電池材事業の原価増が要因となっています。管理販売費の増加についても、カナダにおける電池事業の取得が主要因です。
3. 一方、原燃料価格の上昇に対しては、売価是正活動の強化とともに、製造コストの原価低減活動を精力的に推進しました。しかしながら、経済環境の激変に抗しきれず営業利益は前期比△98%減と大幅減益となりました。
4. また、急激な為替変動による為替差損・一部の持分法適用会社の損益悪化・訴訟和解金の発生・固定資産の処分等により、経常損失・中間純損失を計上しました。

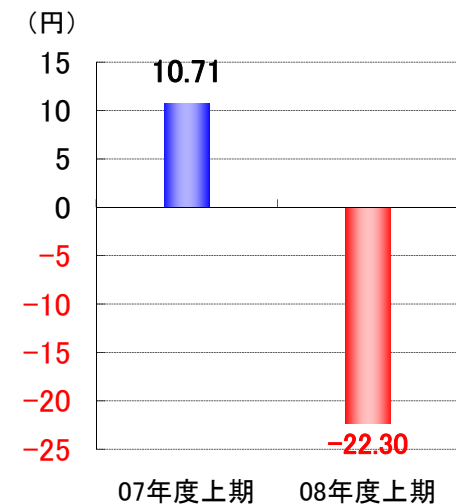
売上高、販管費等



利益



一株当り純利益



セグメント別売上高

(単位：百万円)

セグメント	08年3月期 上期	09年3月期 上期	前年同期比	包含事業
機能性顔料事業	6,884	6,902	100%	電子印刷材料、磁気記録材料、顔料、 ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド など
電子素材事業	8,944	13,715	153%	電池材料、電磁環境部品/材料、 磁石/磁石材料、電子印刷部品、 半導体装置、塩化ビニール安定剤 など
エンジニアリング 事業	5,304	4,100	77%	環境エンジニアリング、 土壌浄化用触媒 など
合計	21,132	24,717	117%	

1. 機能性顔料事業は、景気の後退にも拘わらず、価格是正が進展し、前期比で僅かながらも増収となりました。
2. 電子素材事業は、電池材料事業が成長し、前期比53%増と大幅な増収となりました。
3. エンジニアリング事業は、民間設備投資等の急速な縮小により、前期比23%減と大幅な減少になりました。

2009年3月期中間決算 貸借対照表科目

(単位：百万円)

貸借対照表科目	08年3月期 上期	09年3月期 上期	増減
流動資産	28,300	29,572	1,272
固定資産	28,192	30,437	2,245
流動負債	17,773	21,149	3,376
固定負債	9,414	12,750	3,336
少数株主持分	396	298	△ 98
株主資本	28,188	25,961	△ 2,227
総資産	56,496	60,010	3,514
現金/同等物	5,421	7,187	1,766
キャッシュフロー	△ 767	893	1,660
ROE (%)	3.4	△ 3.5	△ 6.9

※ROEは年換算で算出。

貸借対照表科目の特徴

1. 総資産の増加 35億14百万円の主たる要因は、新規事業への設備投資によるものです。
2. 流動資産の増加 12億72百万円の主な要因は、高騰した電池事業用コバルト等の原材料たな卸資産の増加です。
3. 固定資産の増加 22億45百万円の主な要因は、新規事業への設備投資によるものです。
4. 流動負債の増加 33億76百万円の主な要因は、高騰した原燃料による仕入債務の増加、設備投資の増加によるものです。
5. 固定負債の増加 33億36百万円は主に借入金です。
6. キャッシュフローについては、資金調達 58億円（財務キャッシュフロー計 40億43百万円）を行うことにより、営業活動のキャッシュフロー（39億07百万円）とあわせて、63億76百万円の投資活動を行いました。
7. ROEは、中間純損失となったことから $\Delta 3.5\%$ となりました。

主な連結子会社の状況

(単位：百万円)

会社名	売上高		経常利益		決算期
	08年3月期 上期	09年3月期 上期	08年3月期 上期	09年3月期 上期	
富士化水工業株式会社	5,694	6,315	△ 95	△ 53	12月末
戸田マテリアル株式会社	1,177	1,804	△ 14	104	3月末
戸田ピグメント株式会社	880	891	△ 33	4	3月末
戸田工業ヨーロッパGmbH	1,021	1,021	77	△ 349	3月末
戸田アメリカInc.	1,087	601	28	15	3月末
戸田塑磁材料（浙江）有限公司	295	416	42	19	12月末
戸田アドバンストマテリアルズInc.	-	921	-	△ 169	12月末

1. 富士化水工業(株)は、民間設備投資の縮小による減収要因があったものの、戸田工業による設備投資工事の増加もあり、売上高・経常利益とも改善しています。
2. 戸田マテリアル(株)のリチウムイオン電池材料は、規模の拡大に伴い増収増益となり、黒字転換しました。
3. 戸田ピグメント(株)は、原燃料価格上昇の影響も有りましたが、不採算銘柄の絞込み等で、経常利益は黒字転換しました。
4. 戸田工業ヨーロッパGmbHは、会計基準の変更による棚卸資産の評価減・為替差損等により、経常利益は大幅な赤字となりました。
5. 戸田アメリカInc.は、安定した経営を続けています。売上高の減少は、日本から北米への販売ルートを見直したことによるものです。
6. 戸田塑磁材料（浙江）有限公司は、中国国内で増収となったものの、原燃料価格の高騰の影響で若干の減益となりました。
7. 戸田アドバンストマテリアルズInc.は、シナジー効果を未だ発揮するに至らず、経常損失となりました。

設備投資・研究開発・減価償却

(単位：百万円)

	08年3月期 上期	09年3月期 上期	前年同期比
設備投資	1,060	2,155	203%
研究開発	807	1,043	129%
減価償却	1,086	1,066	98%

1. 設備投資の主な内容は、リチウムイオン電池材料・カラートナー用材料・塩ビ安定剤の増産設備です。
2. 研究開発費は、新規事業の開発に重点配分をしており、リチウムイオン電池材の開発に多くの経費を投入しました。引続き規模の拡大を続けます。
3. 減価償却費は、法定償却年数の見直しによる償却年数の繰延により、従来通りであれば増加するところが横這いとなっています。